

日本プロテオーム学会（2024年～2025年理事）
2024年第一回理事会 議題

開催日時： 2024年1月15日（月） 15:00～18:00

会場： 国立がんセンター研究所 セミナールームA

出席者（50音順，敬称略）：

「新理事」

足達俊吾、阿部雄一、荒川憲昭、今見考志、植田幸嗣、太田信哉、川上隆雄、木村弥生、小寺義男、小林大樹、榊原陽一、武森信暁、田中恒平、増田豪、松本俊英、松本雅記、三城恵美、渡辺栄一郎

「旧理事」

大槻純男、奥田修二郎、小田吉哉、川島祐介、河野信、川村猛、近藤格、杉山直幸、堂前直、肥後大輔、荒木令江、紀藤圭治

欠席者：足立淳、石濱泰、岩崎未央、木下英司、小迫英尊、高尾敏文、野口玲、若林真樹

1. 会長挨拶（松本雅記）

2023年までに学会の下地ができたと考えており、今季からは学会の学術的な活性化をするフェーズになったと考えているとの説明があった。

(1) 会員状況（川島）

会員数（2024年1月11日現在）

種別	会員数
個人会員	個人会員 515名（個人会員：412名※1，個人会員（法人登録）：103名） （昨年：490名、一昨年：552名、本年度新規入会者：67名）
学生会員	384名（218名※2） （昨年：352名、一昨年：327名、本年度新規入会者：35名）
法人会員	14社（昨年 13社、一昨年 13社）
合計	899名+14社（昨年：842名+13社）

※1 2021-2023年度会費未払い者552名を除く（昨年：524名、一昨年：449名）

※2 メール不達者除外

(2) 会計報告（杉山）

2023年4～9月までについて会計事務所からの報告があり、その説明があった。

残高が決算報告として、大会収支なども含め、今年度全体としては200万円ぐらいの黒字になる予定であるとの報告があった。

2. 承認事項（松本雅記）

(1) JPDM 編集委員

(2) jPOST 外部評価委員

理事は基本的に JPDM 編集委員、jPOST 外部評価委員を兼ねていただくことの確認が行われた。

3. 規約改定について（松本雅記）

(1) AOHUPO 理事に関する JPrOS 理事の任期特例の追加

第12条2（理事の選出と任期）

理事は、本会員歴3年以上の個人会員で3名の個人会員から推薦された者の中から、個人会員による投票で得票数上位から20名が選出される。複数の被推薦者が得票数20位となった場合は、同票の候補者全てが選出される。理事の任期は1期2年とし、連続2期4年選出された理事については、その後の2年間理事に選出しない。また、理事改選年度の4月1日現在で65歳以上の会員は、理事の被選挙権を失う。ただし、HUPO イニシアチブの代表及びHUPO 理事、AOHUPO 理事はその職にある期間は、理事の資格を与える。

(2) 副会長を2名にする件を規定改訂

第10条（役員構成）

会長 1名

副会長 1名 →最大2名

庶務担当理事 3名（主1名、副2名）

理事 20名～25名

監事 2名

改訂の概要

改訂点1： HUPO 理事、AOHUPO 理事については、選挙権を失わないことが承認された。HPで報告予定

改訂点2： 会長1名、副会長1名 → 会長1名、副会長2名とすること、規約の変更について承認された。

4. 新理事・自己紹介(新理事)

新理事、旧理事の自己紹介が行われた。

5. 理事役割分担について（松本雅記）

(1) 今期の役割分担

① 副会長の互選 → 「近藤先生、足立先生の就任」で承認が得られた。

副会長：足立先生に大会の引き継ぎを担当していただくことが確認された。

副会長：近藤先生にKHUPO, APSとの交換講演、ICPC等（HUPO理事）との連携を担当していただくことが確認された。

② 河野 AOHUPO 理事の会長指名理事への推薦 → 承認を得られた。

③ 会長指名理事の推薦 「太田先生、榊原先生、阿部先生、河野先生」で承認を得られた。

④ 監事の互選 「榊原先生、川上先生の就任」で承認を得られた。

⑤ 各担当について以下のように決定、承認された。

会 長

松本 雅記（新潟大学）

副会長

足立 淳（医薬基盤・健康・栄養研究所）

近藤 格（国立がん研究センター研究所）

庶務

主担当理事

増田 豪（慶應義塾大学）

副担当理事

足達 俊吾（国立がん研究センター研究所）

木村 弥生（横浜市立大学）

会計

主担当理事

荒川 憲昭（国立医薬品食品衛生研究所）

副担当理事

三城 恵美（名古屋大学）

広報

主担当理事

河野 信（北里大学）

副担当理事

田中 恒平（田辺三菱製薬株式会社）

学会誌

主担当理事

武森 信暁（愛媛大学）

副担当理事

小林 大樹（新潟大学）

渡辺 栄一郎（群馬県立小児医療センター）

学術企画

主担当理事

岩崎 未央（京都大学）

副担当理事

太田 信哉（北海道大学）

野口 玲（国立がん研究センター研究所）

学術活性化

主担当理事

小寺 義男（北里大学）

副担当理事

植田 幸嗣（公益財団法人がん研究会）

石濱 泰（京都大学）

武森 信暁（愛媛大学）

国際担当

主担当理事

石濱 泰（京都大学）

副担当理事

田中 恒平（田辺三菱製薬株式会社）

岩崎 未央（京都大学）

今見 考志（理化学研究所）

教育担当

主担当理事

今見 考志（理化学研究所）

副担当理事

松本 俊英（北里大学）

阿部 雄一（岐阜大学）

監事

川上 隆雄（株式会社メディカル・プロテオスコープ）

榊原 陽一（宮崎大学）

(3) 各担当の役割分担について以下のような説明があった。

- 副会長の役割の明確化について：学会賞の選考だけでなく、国際化、大会間の引継ぎなどを行うこと。
- 学術活性化担当の立ち上げについて：ワーキンググループ、イニシアチブ、研究活動支援など学会の活性化を図ること。小寺先生(主)、植田先生(副)、武森先生(副)、石濱先生(副)
- 教育担当について：トレーニングコースなどを行うこと。今見先生(主)、松本先生(北里、副)、阿部先生(副)
- 会計担当 荒川先生(主)、三城先生(副)
- 学術企画担当：国内学会等での JPrOS の宣伝を行うこと。岩崎先生(主)、太田先生(副)、野口先生(副)
- 国際担当について：HUPO および AOHP の情報収集などを行うこと。石濱先生(主)、岩崎先生(副)、今見先生(副)、田中先生(副)
- 広報担当について：J-STAGE 登録、HP の改良[過去の受賞者の情報公開など]などを行うこと。河野先生(主)、田中先生(副)
- 学会誌担当について：Proteome Letters、JPDM、などを担当すること。武森先生(主)、渡辺先生(副)、小林先生(副)
- JPDM の会計担当について 杉山先生（オブザーバー）
- 会員管理担当について：システム改変、HP の改変「広報との連携」を行うこと。奥田先生（オブザーバー）、高見さん

ご意見：

- 各担当の仕事をもっと明確化した方が良い。（小田先生）
- 早めの段階で決めておく。（松本先生）
- 学術活性化担当は必ずしも主体的に動くのではなく、執行部や各担当と連携して実行していただくことを促す役割と考えている。（小寺先生）
- 学術企画担当は JPrOS の各種活動の宣伝することを目的に活動しているが、学術活性化担当からも企画の提案などをしていただくと良い。（荒木先生）
- 学術活性化担当は学会の活性化を促しつつ、担当間の連携をとる役割と。（松本先生）
- コーディネーター的にサポートする担当として面白いが、役割については今後要検討。（植田先生）

6. 前期理事からの引き継ぎ（引き継ぎ期間：2024年1月～3月）

(1) 小寺前会長より、プロテオーム学会の活性化、プレゼンスの向上に努めて活動してきた旨、前期の統括があった。また、プロテオーム学会創設からの流れ、学会システムの内製化の歴史の振り返りがあった。

(2) 他前理事からの引き継ぎコメント

前教育担当の堂前先生より、トレーニングコース、大会での教育セミナーについて、2022 は

かずさでのDIA、2023は新装置、3種類（Sciex Thermo Bruker）について各2時間の比較を行った旨、報告があった。（今回の参加者は皆様、この企画のために会員になられたことが報告された。）

前学術企画の荒木先生より、分生での企画として9回ぐらいの企画が採択されており、今年度は翻訳あと修飾を中心としたセッションが実施されかなり盛況であったことの報告があった。jPOSTとJPDMの宣伝もあった！もっと他の学科に広げて良いかもしれないとの報告があった。早めに、相談いただきたい旨の話があった。また、学会長については2期連続後のおやすみ中でも何らかの形で理事会に参加できると良いという話があった。

7. JPrOS2023について

- (1) 参加者合計：349名
 - 参加登録数 273名（会員 176名、学生 51名、名誉会員 3名、非会員 43名）
 - 招待演者 24名
 - 出展企業参加者 52名
- (2) 現状の大会収支：収入 13,530,031円、支出 11,118,422円、収支 2,411,609円
- (3) 協賛企業数：39社（ランチョン5社、企業展示25社、広告14社、寄付金4社）
- (4) 一般演題：特別講演3、受賞講演4、指定演題41、一般演題36、ポスター演題87

8. JPrOS2024について（近藤）

日程：6/26（水）～6/28（木）日

場所：リンクステーション青森（青森市文化会館）

大会長：近藤格（国立がん研究センター研究所）

近藤先生より、青森のリンクステーション、12月に下見実施した。非常に立派な建物であったこと、現在スポンサー集めも行っている旨報告があった。

9. 2024年学会賞および奨励賞を前倒して進める件について

学会で学会賞、奨励賞などの発表があるので選出も前倒しで行う必要があり、執行部で早めの対応を行う予定であること連絡があった。皆様からの推薦頼もあった。

10. JPrOS2025について

小原先生を大会長として2025 8/6～8/9のかずさアカデミーホールを仮予約中であること、2024年の前金50万円の使用が可能であることの確認があった。

11. HUP0 誘致について

小寺先生より経緯説明があり、2029年を目標とすることを考えている、そのためには期を跨いだ理事会の連携、JPrOSからHUP0理事を増やすなどの努力が必要との説明があった。

ご意見：

- しっかり計画的に。（植田先生）
- 大会長を決定してからスタートすべき。国際交流を増やして戦略的に考えていくのがよい。（武森先生）
- 29年にできたら良いが、シンガポールと中国、さらにインドも手を上げる可能性がある。その場合、日本が取れるかわからぬ。中心となる人を決めて、戦略的に進めないと厳しい。（近藤先生）
- 中国が強いので現状では勝てない。他の国もあるので、しっかり準備を進める必要がある。（河野先生）

- HUP0 で細かい取り決めが既があり、逆に自分たちで采配できる範囲が小さくなっている。その分、それに合わせて企画する必要がある。学術面も計画的に行うことが重要である。（小寺先生）
- HUP0の国際PSIイニシアチブが今年は3月に京都で実施する。プロテオミクスとメタボロミクス等の異分野交流があるので、それに合わせて北里のシンポジウムを行う。その際に宣伝・交流するなどして、日本の理事以外に海外の親日理事を増やす必要もある。（河野先生）
- 学会として、積極的に国際的な活動をするという機運を盛り上げる必要がある。まずはアジアでプレゼンスして、世界にアピールする。武森先生のようにイニシアチブを国際的に積極的に行っていくなどすることで交流を増やす。国際的な活動を盛り上げる必要があるが、2029年がどうなっているかわからないので、2029年以外の年も手を挙げれば良い。（荒木先生）

12. HUP0のpresentation awardの選考について

資格を満たしていれば授与することになっていたが、これまでも基準が明確になっていなかった。そのための議論も行っていたが、結果的に十分ではなかった。

応募資格（PIが応募してよいのかなど）が明確でない、複数回受賞、連続受賞の決まりがない、副賞の金額（3万円）が国際学会に出席するに十分でない、などの課題をさらに議論していただきたい。（田中先生）

ご意見：

- 優秀な方にサポートするのと、多くの人が出席できるようにサポートするなど、賞を分ける必要があるかもしれない。（小寺先生）
- 賞の理念は良いが、発表が終わった後の副賞を渡すのはおかしい気がした。一方で選考に使う資料が発表内容ではなく要旨だけでチェックが十分行えない状況では理念が十分守られないのではないか。応募資格、選考タイミング、重複、周知が足りない。選考方法も選考委員を増やし、利害関係のある人が抜けても対応できるようにするとよいかもしれない。（小田先生）
- 多くの人に受賞していただきたいの思いと、優秀な人に渡したいとの理念が交錯した。（小寺先生）
- 選考方法が決まっていないので、選考時に選考委員が選考方法を決める感じ。選考方法や申請方法も明確化した方がお互いにやりやすく、良いものになるのではないか。選考委員の考え方が違うとまとまらない。（大槻先生）
- 学会賞や奨励賞等に副賞がないが、この賞にだけあるのはおかしい気がする。（松本先生）
- 発表後に、要旨、履歴書、発表歴だけで審査するのはおかしい。（大槻先生）
- 学会賞や奨励賞などとのバランスをとることも考えた方がよい。（小田先生）
- 賞の格分けを議論した方がよい。（松本先生）

13. その他

(1) 次回の理事会

学生会員の整理について

学生会員の整理ができていないので、ルールを決める必要がある。（川島先生）

学会員の中でもずっと参加していない方の処理をどうするかなど、会員システムの改良に合わせて、除名するなど対応を検討する必要がある。（松本先生）

最近の学生会員はPI名と連絡先を書くようにしている。ただし、これもPIがリタイアするとわからなくなる。（小寺先生）

切り替わりのタイミングをアナウンスしていない。卒業年度を入力するようにしてもらい、自動的に削除するようにしてもらおうとか、何らかの対策が必要。(川島先生)

(2) 各担当での引継ぎ

JPrOS2025 開催時

第11回プロテオミクストレーニングコース 報告 教育委員一同(文責 堂前)

第11回プロテオミクストレーニングコース『最新の装置をデモラボで、見て、触って、測ってみよう!』を2023年11月27日13時(和光:理化学研究所和光キャンパス)ー28日18時(品川-新子安:株式会社エービー・サイエックス東京本社、サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社横浜アナリティカルセンター、ブルカージャパン株式会社横浜デモルーム)にて開催しました。

参加者は、初日は受講者14名、教育委員5名、支援メンバー4名、各メーカーから8名程度と合計31名の参加があり、ほとんどの方が情報交換会にも参加されました。二日目の各社デモラボでは各メーカーより多くのご協力を得て行いました。また、会長も参加いただきました。

受講者の殆どは初心者で学生が5名、助教や会社の研究員の方が9名でほとんどが今回のトレーニングコースのために新たにJPrOS会員になられた方でした。

トレーニング初日は、Hela細胞をEasyPep MS Sample Prep Kit(Pierceのキット)とiST Sample Preparation Kit(PreOmicsのキット)で受講者が各自消化を行いました。

2日目は、株式会社エービー・サイエックス 東京本社に集合し、講義の後SCIEX ZenoTOF 760(Waters M-Class)による消化サンプルの分析とデータ解析並びに結果の説明を行い、昼食後新子安に電車で移動し、サーモフィッシャーサイエンティフィック横浜アナリティカルセンターにて、講義・OrbitrapAstral (Vanquish Neo)による測定・データ解析/結果の説明を行った。その後徒歩でブルカージャパン株式会社横浜デモルームに移動し、講義・timsTOFUltra (nanoElute)による測定・データ解析・解析結果の報告がありました。

最終的に定刻通りに(18時終了予定)現地解散できました。

盛りだくさんの企画でしたが、最新の装置が実際に稼働しているところを見て、プロテオミクスの深さやスループットの良さ、解析時間などが体験できたと思います。



第11回プロテオミクストレーニングコース 会計報告

会計報告			
収入の部			
	参加費	110000 円	(内訳は下記)
	情報交換会費	110000 円	(内訳は下記)
	昨年度繰越金	19267 円	川島氏より現金で受領
	合計	239267 円	
支出の部			
	お弁当代	41580 円	【ふるさと】 ■ 1,890 円 × 22 食 = 41,580 円
	情報交換会	154000 円	5500 円コース 28 人
	JPrOS 会長主 催反省会	18150 円	(領収書がサーモ宛になっていますが、肥後さんが払っていません。)
	交通宿泊費	11700 円	(内訳は下記)
	ペットボトル	766 円	2Lx4 本
	合計	226196 円	

HUPOのpresentation awardの選考について

議論・改定ポイント

[1] 賞のあるべき姿に関して

1. 賞を設定した目的は「プロテオーム解析に関する研究発表を奨励し、国際的に活発に活躍する研究者を積極的に育成することを目的」
2. ポイント:若手の支援という目的に対し、現在でも意味のある賞になっているか? また学会の発展につながる意義のある賞となっているか?

課題1:応募資格について

- PI等の応募は適切か?
- 同一ラボからの応募者を全員採択してよいものか?

課題2:他の賞・複数回受賞の可否について

- 重複受賞、連続受賞は目的からして不適切では?

課題3:副賞の金額は適切か?

- 学会の底辺を広げるという意味では額が少ないのでは?

[2] 選考方法について

1. 昨年の改定で選考委員会を定め選考することとしましたが、選考からはずれることとした「過去3年間の共同研究者」のしぼりがきつく、選考が難しい、また調査も難しいことから再考の余地があるものと考えます。
2. 選考手順について(昨年度は採点方式、ただし選考規程を定めていなかったため、採択・不採択の2択での判断をお願いしました。)
 - 複数回受賞の可否などについては規約・募集の際に記載すべきでは?

[3] 応募数の少なさについて

1. Travel/PresentationAwardの応募者が毎年少なく、ラボのかたよりのあるのが事実です、HUPO/AOHUPOの日本からの参加者数を考えるとうちよつとも思うのですが?

以下、学会規約より抜粋

【Presentation award 選考規程】

プロテオーム解析に関する研究発表を奨励し、国際的に活発に活躍する研究者を積極的に育成することを目的として、会員に対して Presentation award を毎年、贈呈し表彰する。

1. 選考方法

自ら申請した候補者について、Presentation Award 選考委員会で選考後、理事会での承認を経て受賞者を決定する。Presentation Award 選考委員会は、委員長と4名の委員からなり、委員長は国際担当理事（主担当）とする。委員は無記名選挙（4名連記）で理事の中から選出する。本人、同門、過去3年程度の密な共同研究者、子弟関係、家族親戚などが受賞候補者として推薦された場合には、選考委員になることはできない。その際、選挙で次点の者を選考委員とする。また、国際担当理事（主担当）が委員長となりえない場合、国際担当理事（副担当）を委員長とする。いずれの国際担当理事も委員長となりえない場合、選挙において得票数の多い委員を委員長とする。なお、選考委員と被推薦者の関係が適切であるかどうかについては委員会が調査する。同一の研究室または研究グループから複数名が応募した場合、選考委員会は当該研究室または研究グループを主宰する研究者に優先順位をつけることを依頼できる。

2. 受賞資格

受賞の候補者は次の条件（1）～（4）のすべてを満たす者とする。（1）本学会の会員であること、（2）受賞年の JPrOS 大会および、HUPO 年会または AOHUPO 年会、にて発表を予定していること、（3）受賞年の4月1日において40歳未満または学位取得後8年以内であること。

3. 受賞件数

原則として各国際学会につき10名以内とする。ただし、応募状況を鑑みて受賞者が増減する場合もある。

4. 授与

賞状と副賞（金一封）を授与する。副賞は一人3万円とし、年総額50万円を上限とする。

5. 申請方法

申請者は次の全項目をA4用紙1枚（厳守）に簡潔にまとめて庶務担当理事宛送付する。（イ）申請者氏名（所属・連絡先）（ロ）生年月日または PhD 取得年（ハ）発表タイトル（ニ）発表概要（ホ）JPrOS 大会での発表の予定（ヘ）過去の JPrOS 大会における発表履歴（ト）JPrOS 入会年（チ）リサーチマップ URL（※登録済の場合のみ）

6. 締め切り日

受賞年に会長が決定し、学会ホームページおよび学会通信にて会員に告知する。

7. その他

やむを得ないと会長が認める理由で予定した発表ができない場合、発表申し込みに関連して支払った費用（交通手段・宿泊のキャンセル料金、参加費など）は、副賞の金額を上限として受賞者に支給することとする。